

# 戦前・戦後の生活を今に伝える 歴史文化ミュージアム。 石川歴史民俗資料館



## 戦前の暮らし

戦前の沖縄で実際に使われていた農具や漁具、生活用具には、先人たちの様々な知恵が活かされている。機能優先でありながらも、これらには美しささえ感じられる。



## 戦後の生活をパネルで紹介

戦後の物のない時代を写真を通してかい間見る。そこには戦後の“0(ゼロ)”からの時代を生きるバイタリティーがある。



## 戦後の人々の暮らし

石川は戦後沖縄の出発地点。モノが不足している時代だったが、カンカラ三線に代表されるように、人々は工夫をこらして、新しい時代の暮らしを必死に築いていた。



## 戦後の芸能

難民収容所や捕虜収容所に収容された沖縄の人々は、空き缶を使いカンカラ三線を作り、歌で自らを慰めた。また、沖縄諮詢会では、芸能人を集め、松竹梅の3劇団を作り、各地を慰問させた。



## 規格住宅

戦災で家を失った人達のために約7万5千戸の仮設住宅が建てられ、規格住宅と呼ばれた。プレハブ工法により、一気に工程を進め、短い時間で建てることかできた。当館では実物大で復元している。



## うるま市の歴史文化財



## 東恩納博物館跡

沖縄戦後初の博物館。沖縄県立博物館の前身にあたる。昭和元~4年かけてつくられた建物は現存し、市指定文化財。



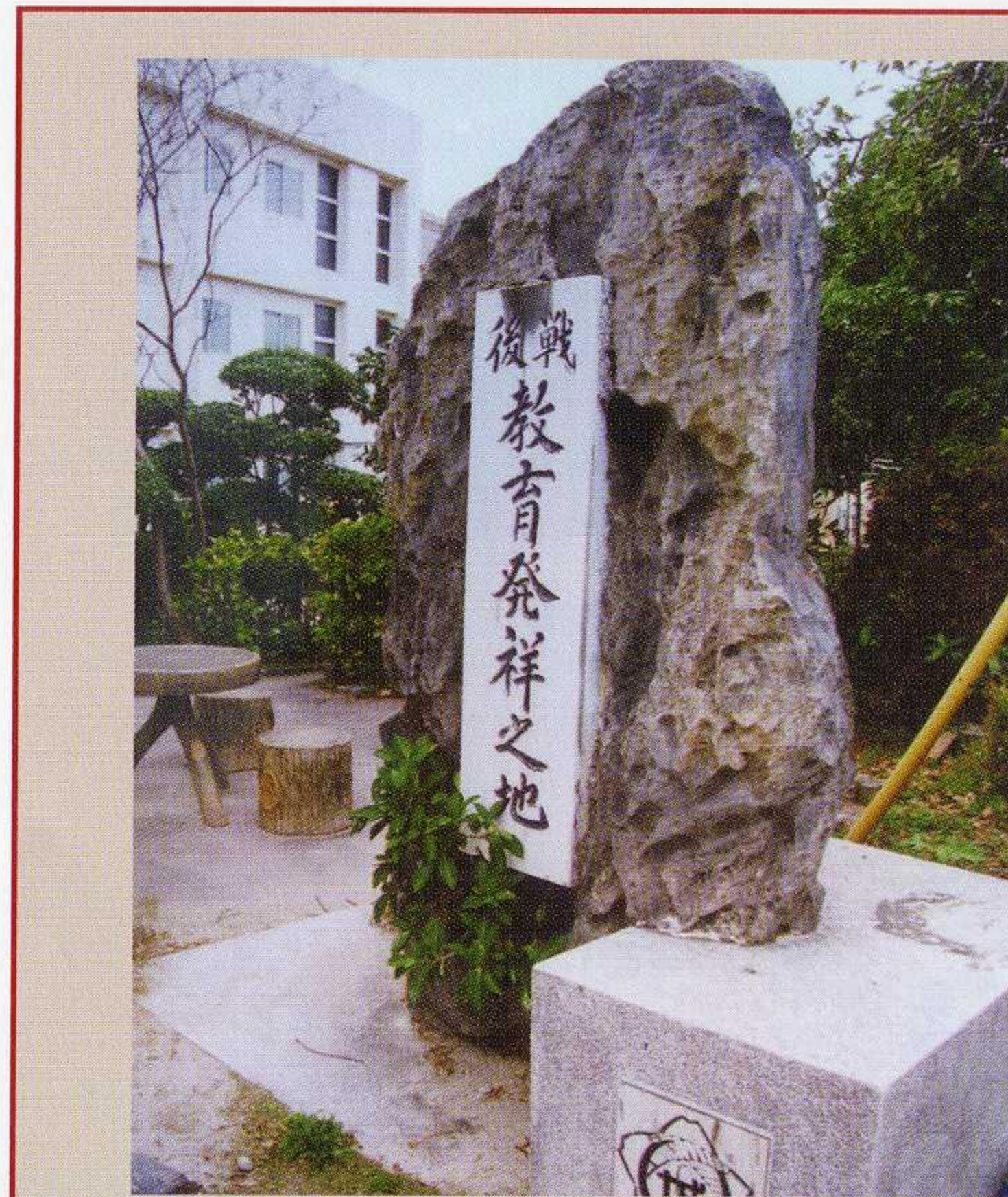
## 沖縄諮詢会堂跡

沖縄戦後初の行政機構。15人の委員を選出し、会堂で連日沖縄の復興について話し合う。昭和7年につくられた建物は現存し、市指定文化財。



## 石川部落事務所

昭和7年に建築された字石川のムラヤー。現在の公民館にあたる。県内に唯一残る戦前からのムラヤーかも。終戦直後は石川市役所にもなる。市指定文化財。



## 戦後教育発祥之地

中南部で日米軍が戦闘している1945年5月7日、戦後初の学校、石川学園が開校し、教育が始まった。石碑は石川学園の歴史を引き継ぐ城前小学校に建つ。



## 戦後高等教育発祥の地

戦後の教員不足に対応するためにできた戦後初の教員養成機関。6ヶ月ないし1ヶ年で教員を養成した。1950年5月に開校した琉球大学に吸収された。